

第1回大崎上島町地域協議会理事会報告

日 時：平成20年10月6日（月）13：00～16：00

場 所：大崎支所3階会議室

アドバイザー：目瀬岡山大学名誉教授 同行者児玉広島県土地改良事業団体連合会課長
（目瀬先生には、ふるさとづくり構想、ふるさとづくり計画書（案）は事前を送付済み。）

参加者：大崎上島町地域協議会理事（参加者最後尾記載）

開会挨拶 松浦会長

目瀬先生一行12時15分白水港着→車にて造船所、望月邸、商船高専、木江5階建て・3階建て町並み、神峰より多島美等を視察後、支所合流。移動中島の状況経緯を車中で説明。この間、会場では石倉さん地域協理事承認及び規約説明、松浦会長から東京研修報告。

会場到着（13時30分）目瀬先生・児玉課長紹介

目瀬先生自己紹介

岡山大学を10年前退官 美作大学学長を経て昨年引退。

地域資源を活かした地域資源管理学が専門、地域の皆さんの意見を伺い、かつ、意見を交換しながら地域興しをアドバイスしたい。先ず、権伝馬等に関連した情報を下さい。

福増氏：おおよそ2百年大阪住吉神社より古江の地に住吉神社を招聘したが、明治時代神社合祀例により、八幡神社に合祀され神社は壊されて、現在はない。

旧暦6月29日闇夜の引き潮を利用して古江から矢弓まで御輿を乗せた御座船曳航、また、満ち潮を利用して矢弓から古江に帰る神事が、やがて権伝馬の競争に発展。権伝馬の構成は、漕ぎ手14人、船頭、太鼓、ケンガイ、ダイフリ各1人の18人から成る。

14～5年前より島外の出身者が少しでも多く参加できるよう盆前の8月13日とした。

田葉氏：歴史の整理、指導要領の取りまとめは商船高専が協力する用意を取り付けてある。

世登氏：商船高専は地域協議会事業実施に必要な場を提供する用意はある。

榎本氏：地域協議会の各団体の連携を密にして、個々に実施していたものを統一的に運営してより有効な町興しに結びつきたい。

松浦氏：協議会で力を合わせ将来に向けて活性化を図りたい。

吉本氏：島内の造船所3社が新造船建造、観光資源は広島県23市町中一番少ない。

神峰ウオーク、ミカン狩り対応農園2戸、夫婦経営で人手がない。

浜田氏：農地440h、600戸柑橘が主、レモン・晩柑類へ移行、トマト20戸、漁業70戸、昭和60年頃から養殖事業、新たな農事法人による「せとか」園3h造成。

亀山氏：町の活性化については若者の定住が少ない。権伝馬は協働しないと競争に勝てないので、練習中に上下・同僚の人間関係が確立される。

岡本氏：生産者団体、島外で島の良さと商品をPR、バスツアー広島→大崎年3回実施、島に来て島を感じてもらいたい。FFはフルーツ・フィッシュ・フレッシュの意味を込めている。権伝馬は代々受け継がれている。神事を離れたレース開催で交流を図りたい。

先田氏：商工会としてFFバスツアー応援、青年部中心に水上バイク耐久レース9年実施、10年目の来年は一区切りし、新たなイベントに衣替えをしたい。権伝馬を切り口に柑橘類・ブルーベリーを含めて島の良さを売り出し、滞在型観光に結びつけたい。

高田氏：中学校統合行事として権伝馬体験は生徒の部活、土日対応は難しいと思うので、子供達が自主的に行けば参加が出来る環境をつくって欲しい。

望月氏：大崎地区は豊作を祝う秋祭りが中心で、権伝馬は行われていない。

増本氏：弓張り祭りに弓道大会、沖浦物産館漁協祭り共催。人を呼ぶ環境が無く、町民の受け入れの気持ちが薄い。権伝馬は大正時代から木造船業が栄えた副産物—船大工の腕を競う場(長さのみ決め、如何に早い伝馬をつくること。)現在は競争より参加を大切にする。

目瀬先生：ありがとうございました。権伝馬や島の状況が把握できました。今日のまとめを早急に整理してお送りしますので、不明なところ課題等皆さんで検討して連絡下さい。

12月上旬までにまとめた方が事業実施も楽になると思うので、18日～25日海外に行つて来ますが、14日くらいまでに今日のまとめを送り、11月10日～11日のいずれかに来島して計画策定書の概要をまとめましょう。

目瀬先生が、島の地図及び権伝馬の資料を所望されたので、観光案内を含め、地図並びに全国の権伝馬関連行事一覧と権伝馬神事案内を手交。

閉会挨拶 福増副会長

参加者：役場—吉本、亀山、浜田

教育委員会—高田

町議会—中村(急用のため中座)

区長会—福増、望月

広島商船—世登、田葉

商工会—先田

観光協会—増本

FF—岡本

NPO—松浦、藤原、石倉、榎本

目瀬先生随員—旧姓御堂女史、児玉課長随員青年